

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目次

Preface 巻頭言	
「1年が経過して」.....丸山 博文	1
Greetings ご挨拶	
「就任のご挨拶」.....平田信太郎	2
「就任のご挨拶」.....柳本 惣市	2
「就任のご挨拶」.....相川 友直	3
「就任のご挨拶」.....野村 良太	3
「就任のご挨拶」.....加治屋幹人	4
Activities 新設講座紹介	
「口腔炎症制御学」共同研究講座のご紹介.....宮内 睦美	4
Activities 研究科の活動	
「広島大学の新型コロナウイルス研究 第2報」坂口 剛正	5
My Motto 座右の銘	
「自分が病気になったときに診てもらいたい医師を目指す」永田 靖	6
「Only a life lived for others is a life worth living」弓削 類	6
Excellent Paper すぐれた論文	
「肝線維化の進行を予測する肝臓の遺伝子発現パターンを同定」大野 敦司	7
Research Frontline 研究最前線	
「細胞の骨「微小管」が作り出す“造形”とユニークな現象」池上 浩司	8
「スクレロシン欠損が矢状縫合、および頭蓋骨の成長に 及ぼす影響の解明（遺伝子欠損モデルを用いた検討）」加来 真人	9
Topics	
「「広大霞LabSecretary」の運用開始から1年経ちました」大学院医系科学研究科 研究力強化専門委員会	10
編集後記高橋 陵宇	10

1年が経過して

大学院医系科学研究科長 丸山 博文



昨年4月に研究科長に就任して1年が経過しました。スケジュール感を把握することが出来ましたので、これからはより迅速に課題に対応することができるのではないかと考えています。

昨年末には、研究科全ての研究室の皆様にはアヒリングのお時間を頂戴し、ありがとうございました。大学の置かれている現状についてご説明し、大学全体での取り組み内容や各研究室のAKPI® (Achievement-motivated

Key Performance Indicator) /BKPI® (Basic Effort Key Performance Indicator) の状況などについてお話しさせていただきました。その中でいくつか課題も頂戴しましたので、今後検討していきたいと思っております。

COVID-19の影響により大学院の授業形態も大きく変貌しました。今後はオンライン学習支援システム (Bb9) なども活用しながら、より柔軟に対応していく方針となりました。

今年度から大学院入学試験の英語能力の確認は、筆記試験は廃止し、資格試験のスコアを提出することとなります。CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) 対照表のA2レベル以上あるいは医系科学研究科が指定する英語外部検定試験の基準を満たす成績であることが条件となります。2020年4月以降実施の試験の成績証明書を有効としますが、例外もあるため詳しくは学生募集要項でご確認の上、進学を予定している方へ周知いただきますようお願い申し上げます。

研究力向上のための研究科の取り組みとしては、「広大霞Lab Secretaryの運用改善」、「疾患バイオマテリアル・レポジットシステムの構築」、「霞動物実験施設の増築」が挙げられます。運用や制度設計に関して、皆様のご協力をお願い申し上げます。重要かつ困難な課題としては、「スペースの確保」が挙げられます。本件に関して抜本的な対応は当面困難ですので、やりくりするしかない状況です。こちらについては今年度もスペースの利用状況の調査が全学的に行われる予定です。実態に即した回答をお願い申し上げます。基準よりオーバーしているスペースの課金については、まずは東広島キャンパスから、プログラムごとにチャージされる運用で令和5年度に導入される予定です。

人事的には、大学に学術研究員や特命教授・特定教授等の制度が導入されています。学術研究員は特殊性を有し高度かつ専門的な知識を必要とする業務に従事する人の雇用形態です。研究が主たる業務でない場合、教員としてではなく学術研究員として雇用することが可能です。給与のほか処遇は大学教員と同様とされています。また各種委員会などの承認は必要ですが、特定教授等の称号付与も可能となりました。給与などの処遇は変わりませんが、対外的に称号を使用することが可能です。

留学生の入国も徐々に回復する見込みです。皆様の研究推進に貢献できるよう、今後も全学の情報を共有しながら、医系科学研究科として尽力していきます。

